

## 浜の活力再生プラン (第 2 期)

### 1 地域水産業再生委員会 浜プラン ID 1126004

組織名	岡山県地域水産業再生委員会玉野市地区部会
代表者名	部会長 國屋 利明

再生委員会の構成員	胸上漁業協同組合、たまの漁業協同組合、玉野市
オブザーバー	岡山県（農林水産部水産課、農林水産総合センター）、岡山県漁業協同組合連合会

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	<p>岡山県玉野市（対象漁業者数 52 名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ノリ養殖漁業グループ <span style="float: right;">24 名</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ養殖漁業専業 <span style="float: right;">3 名</span></li> <li>・小型底びき網漁業と兼業 <span style="float: right;">12 名</span></li> <li>・建網漁業と兼業 <span style="float: right;">1 名</span></li> <li>・流網漁業、建網漁業と兼業 <span style="float: right;">3 名</span></li> <li>・流網漁業、小型底びき網漁業と兼業 <span style="float: right;">5 名</span></li> </ul> </li> <li>○漁船漁業グループ <span style="float: right;">28 名</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小型底びき網漁業専業 <span style="float: right;">7 名</span></li> <li>・小型底びき網漁業と流網漁業 <span style="float: right;">1 名</span></li> <li>・建網漁業専業 <span style="float: right;">5 名</span></li> <li>・流網漁業専業 <span style="float: right;">3 名</span></li> <li>・流網漁業と建網漁業 <span style="float: right;">2 名</span></li> <li>・建網漁業とつぼ網漁業 <span style="float: right;">1 名</span></li> <li>・つぼ網漁業専業 <span style="float: right;">3 名</span></li> <li>・たこつぼ漁業専業 <span style="float: right;">1 名</span></li> <li>・たこつぼ漁業とあなごかご漁業 <span style="float: right;">1 名</span></li> <li>・たこつぼ漁業と流網漁業 <span style="float: right;">2 名</span></li> <li>・あなごかご漁業専業 <span style="float: right;">1 名</span></li> <li>・建網漁業と魚類養殖漁業 <span style="float: right;">1 名</span></li> </ul> </li> </ul>
-----------------------	--

## 2 地域の現状

### (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

- ・玉野市地区は、岡山県南端の児島半島東部に位置し、旭川と吉井川、児島湖から供給される豊富な栄養分の恩恵を受ける好漁場であり、古くから漁業が盛んに営まれている。主要漁業は児島湾口部の漁場を主としたノリ養殖漁業であり、生産量は長年県下一を誇る。また、小型底びき網漁業、建網漁業、流網漁業等の漁船漁業により漁獲される魚種は多種多様であり、春にベイカ、サワラ、夏にマナガツオ、ガラエビ、四季を問わずゲタ、タイ、スズキ、タコ、ガザミ、ハモ、ツナシが多く水揚げされる。
- ・近年、当海域付近の藻場が減少しており、稚魚が生息する環境が少なくなっている。そのため、成魚になる前に沖に出て、他の魚に捕食されることも多いと考えられる。このことから、播種を主体として砂泥域で繁殖するアマモの増殖に取り組んできたが、藻場造成範囲の広域化や環境変動に対する安定性を向上するため、着底基盤の活用等による岩礁域で繁殖するガラモの増殖が求められている。
- ・ノリ養殖漁業では、養殖海域の栄養塩減少、海水温の変化等による色落ちが問題となっている。
- ・当地区産のノリの多くは業務用に流通しているため、当地区がノリの一大産地であることは一般消費者に広く認知されていない。
- ・漁船漁業では、魚離れによる消費の減少、量販店主導による低価格設定、産地仲買人の取扱量の減少等、様々な要因によって魚価の低迷が続いている。
- ・燃油価格や資材価格の上昇が漁業経営を圧迫している。
- ・後継者不足や漁業者の高齢化、新規漁業就業者の確保が課題となっている。

### (2) その他の関連する現状等

当地区は、政令指定都市である岡山市の南に位置しており、海釣りなどのレジャーや水産加工品に対するニーズが高い地域であるが、沿岸部である地域特性や地域水産資源を十分に活用できていない状況である。

## 3 活性化の取組方針

### (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

①安心・安全で高品質な水産物の供給

- ・神経締め等の鮮度保持技術の導入による水産物の高付加価値化を推進する。
- ・新たな冷凍技術の導入及び水産加工品の開発等による高付加価値化・消費拡大を図る。
- ・ノリの異物除去率の向上に努め、高品質のノリを安定供給する。
- ・市場ニーズに応じた乾ノリの品質の統一化及び販路拡大を図る。

②地元水産物の販売促進及びPR

- ・学校給食での地元水産物の利用促進、魚を使った料理教室、さばき方講座等の開催により、地産地消の推進や魚離れの防止を図る。
- ・道の駅や飲食店等の商工業者と連携し、地元水産物を活用したメニューを提供することにより消費の拡大を図る。
- ・フェイスブックなどのSNSを活用し、地元水産物をPRする。
- ・地元開催のイベント等を活用した対面販売を通じ、消費者のニーズを把握するとともに地元水産物の利用を促進する。

③美しく豊かな海づくり

- ・種苗放流及び岡山県資源管理指針に基づく資源管理に取り組み、水産資源の維持・増加を図る。
- ・漁場改善活動を推進する。
- ・アマモの種採取及び播種、小型貝殻ブロックの地先海域への設置等による藻場の再生・造成に取り組む。

④賑わいの創出

- ・地元開催のイベントへの参加や自主イベントの開催により、漁業者と消費者の交流を推進する。
- ・地元小学校でのノリスキ体験の実施や、資源管理活動を市内小中学生の環境学習の場として提供することで、地域や消費者が漁業に触れるきっかけづくりに努める。
- ・漁業体験プログラムの開発等を通じ、漁業及び漁村の魅力を発信する。

⑤漁業経営の基盤強化

- ・船底清掃や減速航行等による低コスト操業を推奨する。

- ・漁船機関の省エネ化、省エネ型ノリ乾燥機への更新、多管式排気管の導入等を推進する。
- ・ノリ加工場の集約及び協業化による経営の合理化を推進する。
- ・漁港施設の再整備及び施設の合理化による作業性向上を図る。

⑥意欲のある漁業者の育成

- ・計画的な漁業経営を行うことができる意欲のある漁業者の育成に努める。
- ・新規漁業就業者、漁業後継者に対する体験研修等の受入体制を整備するとともに、安心して漁業就業できる魅力ある環境づくりに取り組む。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

岡山県資源管理指針に基づき、船上でのサワラの受精卵放流、対象魚種の小型魚の再放流、抱卵ガザミ・軟甲ガザミの再放流、底びき網漁業の網の目合いの制限、休漁日の設定に取り組んでいる。また、岡山県ノリ養殖漁場改善計画に基づき、養殖柵数量、養殖漁場及び期間等について制限している。

(4) 具体的な取組内容

1年目（平成31年度）

以下の取組により、漁業所得について基準年比2.0%の向上を目指す。以降、以下の取組内容は、取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業収入について、基準年比0.3%の向上を目指す。</p> <p>○安心・安全で高品質な水産物の供給</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁船漁業者は岡山県漁業士会主催の「魚の神経締め講習会」等に参加し、技術の習得に努める。</li> <li>・漁協は新たな鮮度保持技術の情報収集に努める。</li> <li>・漁協は品質低下しやすい小型エビ類やイカ類、近年水揚げが増加し価格が下落したマダイやチヌの供給安定化による利用促進及び高付加価値化に向け、小型急速冷凍設備導入の費用対効果等を検討する。</li> <li>・ノリ養殖漁業者は高感度な異物検出機及び選別機への更新を推進する。</li> <li>・漁協はノリを取り扱う商社を直接訪問し、市場のニーズを聴取する。</li> <li>・漁協は県、市と連携し、石島のノリ養殖漁業者の約半数を対象に、ノリ加工場を集約及び協業化し、乾ノリの品質を統一する。また、他の石島のノリ養殖漁業者についても集約化を検討する。</li> </ul> <p>○地元水産物の販売促進及びPR</p>
---------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部は県漁連や学校給食センターと連携し、胸上海苔を使った花寿司の料理教室や親子料理教室で魚のさばき方を指導するなど、水産物の利用促進に努める。</li> <li>・漁協は胸上海苔を市内小中学校の給食に提供するとともに、胸上地区がノリの一大産地であることを紹介することで、胸上海苔の認知度向上を図る。</li> <li>・漁協は道の駅みやま公園や地元飲食店と連携し、ノリや旬の地元水産物を使用したメニューを検討する。</li> <li>・漁業者は漁協や市と連携し、SNSを活用してノリや鮮魚のPR、漁の様子等を随時発信する。また、胸上海苔がパワーの源である地元商工会の人気キャラクター「東兎ライダー8」を活用した地元水産物のPRに努める。</li> <li>・女性部は道の駅みやま公園と連携し、地元水産物の販売イベントの開催を検討する。</li> </ul> <p>○美しく豊かな海づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は県、市と連携し種苗放流を行う。また、岡山県資源管理指針に基づき資源管理に取り組み、水産資源の維持・増加に努める。</li> <li>・漁協は県、市と連携し海底ゴミの回収促進及び海底耕運を実施し、海底の浄化に取り組む。</li> <li>・漁業者は、藻場の再生・造成のため、アマモの種採取及び播種に取り組む。</li> <li>・漁協は県、市と連携しガラモ場の再生・造成に向け、小型貝殻ブロックを地先海域に増設する。また、設置後のガラモの定着効果を検証し、取組を効率的に進めるための基礎資料とする。</li> </ul> <p>○賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部は地元開催のイベントに参加し、道の駅みやま公園や地元飲食店等との連携を深めるきっかけとする。</li> <li>・漁協は地元小学校の児童を対象にノリすき体験を実施する。</li> <li>・漁協は市と連携し、メバルの種苗放流を市内小学生の環境学習の場として提供する。また、アマモ場の再生・造成活動への市内小中学生の参加について検討・調整する。</li> <li>・本委員会が参画する地域協議会（たまの農山漁村魅力向上推進協議会）において、漁業体験プログラムの開発や地元水産物を使用した新メニュー、特産品開発など、漁業収入向上の取組の一層の充実と具現化を加速させ</li> </ul>
--	---

	<p>るため、農泊推進事業に取り組む。</p> <p>○意欲のある漁業者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は先進地視察に漁業者を参加させるなど、計画的な漁業経営を行う人材の育成に努める。</li> <li>・漁協は、県、市と連携して漁業就業相談の場を設けるなど、新規漁業就業者、漁業後継者に対する受入体制の整備を検討する。</li> <li>・漁協はノリ加工場の集約化や漁港施設の合理化を進め、作業負担軽減を図る等、新規漁業就業者、漁業後継者が就業しやすい環境づくりに努める。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により燃料費について、基準年比 0.7%の削減を目指す。</p> <p>○漁業経営の基盤強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ養殖漁業者は、省エネ型乾燥機への更新、多管式排気管の導入、加工場の集約化等に取り組み、燃油 100ℓ当たりのノリ出荷枚数の基準年比 2.0%増加を目指す。</li> <li>・漁業者は、漁船機関の省エネ化や船底清掃、減速航行等による低コスト操業に取り組む。</li> <li>・漁協は県、市と連携し、石島のノリ養殖漁業者の約半数を対象に、ノリ加工場を集約及び協業化し、乾ノリの品質を統一する。また、他の石島のノリ養殖漁業者についても集約化を検討する。(再掲)</li> <li>・漁港施設を再整備し、施設の合理化及び作業性向上を図る。</li> <li>・燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、たまの漁協における漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>水産業強化支援事業(国)、漁業経営セーフティーネット構築事業(国)、新規漁業就業者総合支援事業(国)、漁業振興特別対策事業(県)、水産資源回復推進事業(市)、水産基盤整備事業(国)、農山漁村地域整備交付金(国)、港整備交付金(国)</p>

## 2年目(平成32年度)

以下の取組により漁業所得について、基準年比 3.7%の向上を目指す。

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入について、基準年比0.6%の向上を目指す。</p> <p>○安心・安全で高品質な水産物の供給</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁船漁業者は岡山県漁業士会主催の「魚の神経締め講習会」等に参加し、技術の習得に努める。</li> <li>・漁協は新たな鮮度保持技術の情報収集に努める。</li> <li>・漁協は小型急速冷凍設備をリース方式により導入する。</li> <li>・女性部は設備を活用して水産物を冷凍保存し、イベントで提供する料理の</li> </ul>
--------------	---

	<p>材料として利用する。また、品質低下しやすい小型エビ類やイカ類、近年水揚げが増加し価格が下落したマダイやチヌの加工品を試作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ養殖漁業者は高感度な異物検出機及び選別機への更新を推進する。</li> <li>・漁協はノリを取り扱う商社を直接訪問し、市場のニーズを聴取する。</li> <li>・漁協は県、市と連携し、石島のノリ養殖漁業者の約半数を対象に、ノリ加工場を集約及び協業化し、乾ノリの品質を統一する。また、他の石島のノリ養殖漁業者についても集約化を検討する。</li> </ul> <p>○地元水産物の販売促進及びPR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部は県漁連や学校給食センターと連携し、胸上海苔を使った花寿司の料理教室や親子料理教室で魚のさばき方を指導するなど、水産物の利用促進に努める。</li> <li>・漁協は胸上海苔を市内小中学校の給食に提供するとともに、胸上地区がノリの一大産地であることを紹介することで、胸上海苔の認知度向上を図る。</li> <li>・漁協は道の駅みやま公園や地元飲食店と連携し、ノリや旬の地元水産物を使用したメニューを検討する。また、急速冷凍設備で試作した地元水産物の加工品の活用を検討する。</li> <li>・漁業者は漁協や市と連携し、SNSを活用してノリや鮮魚のPR、漁の様子等を随時発信する。また、胸上海苔がパワーの源である地元商工会の人気キャラクター「東兎ライダー8」を活用した地元水産物のPRに努める。</li> <li>・女性部は道の駅みやま公園と連携し、地元水産物の販売イベントの開催を検討する。</li> </ul> <p>○美しく豊かな海づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は県、市と連携し種苗放流を行う。また、岡山県資源管理指針に基づき資源管理に取り組み、水産資源の維持・増加に努める。</li> <li>・漁協は県、市と連携し海底ゴミの回収促進及び海底耕運を実施し、海底の浄化に取り組む。</li> <li>・漁業者は、藻場の再生・造成のため、アマモの種採取及び播種に取り組む。</li> <li>・漁協は県、市と連携しガラモ場の再生・造成に向け、小型貝殻ブロックを地先海域に増設する。また、設置後のガラモの定着効果を検証し、取組を効率的に進めるための基礎資料とする。</li> </ul> <p>○賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部は地元開催のイベントに参加し、道の駅みやま公園や地元飲食店等</li> </ul>
--	--



	<p>との連携を深めるきっかけとする。また、道の駅みやま公園と連携し、地元水産物の販売イベントを検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は地元小学校の児童を対象にノリスギ体験を実施する。</li> <li>・漁協は市と連携し、メバルの種苗放流を市内小学生の環境学習の場として提供する。また、市内小中学生の参加を呼びかけ、アマモ場の再生・造成活動を実施する。</li> <li>・本委員会が参画する地域協議会（たまの農山漁村魅力向上推進協議会）において、漁業体験プログラムの開発や地元水産物を使用した新メニュー、特産品開発など、漁業収入向上の取組の一層の充実と具現化を加速させるため、農泊推進事業に取り組む。</li> </ul> <p>○意欲のある漁業者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は先進地視察に漁業者を参加させるなど、計画的な漁業経営を行う人材の育成に努める。</li> <li>・漁協は、県、市と連携して漁業就業相談の場を設けるなど、新規漁業就業者、漁業後継者に対する受入体制の整備を検討する。</li> <li>・漁協はノリ加工場の集約化や漁港施設の合理化を進め、作業負担軽減を図る等、新規漁業就業者、漁業後継者が就業しやすい環境づくりに努める。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により燃料費について、基準年比 0.9%の削減を目指す。</p> <p>○漁業経営の基盤強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ養殖漁業者は、省エネ型乾燥機への更新、多管式排気管の導入、加工場の集約化等に取り組み、燃油 100ℓ当たりのノリ出荷枚数の基準年比 2.0%増加を目指す。</li> <li>・漁業者は、漁船機関の省エネ化や船底清掃、減速航行等による低コスト操業に取り組む。</li> <li>・漁協は県、市と連携し、石島のノリ養殖漁業者の約半数を対象に、ノリ加工場を集約及び協業化し、乾ノリの品質を統一する。また、他の石島のノリ養殖漁業者についても集約化を検討する。（再掲）</li> <li>・漁港施設を再整備し、施設の合理化及び作業性向上を図る。</li> <li>・燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、たまの漁協における漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業（国）、新規漁業就業者総合支援事業（国）、漁業振興特別対策事業（県）、水産資源回復推進事業（市）、水産基盤整備事業（国）、農山漁村地域整備交付金（国）、港整備交付金（国）</p>

### 3年目（平成33年度）

以下の取組により漁業所得について、基準年比 5.4%の向上を目指す。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組により漁業収入について、基準年比0.9%の向上を目指す。</p> <p>○安心・安全で高品質な水産物の供給</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁船漁業者は岡山県漁業士会主催の「魚の神経締め講習会」に参加し、技術の習得に努める。</li> <li>・漁協は新たな鮮度保持技術の情報収集に努める。</li> <li>・漁協は小型急速冷凍設備をリース方式により導入する。</li> <li>・女性部は設備を活用して水産物を冷凍保存し、イベントで提供する料理の材料として利用する。また、品質低下しやすい小型エビ類やイカ類、近年水揚げが増加し価格が下落したマダイやチヌの加工品を試作する。</li> <li>・ノリ養殖漁業者は高感度な異物検出機及び選別機への更新を推進する。</li> <li>・漁協はノリを取り扱う商社を直接訪問し、市場のニーズを聴取する。</li> <li>・漁協は県、市と連携し、石島のノリ養殖漁業者の約半数を対象に、ノリ加工場を集約及び協業化し、乾ノリの品質を統一する。また、他の石島のノリ養殖漁業者についても集約化を検討する。</li> </ul> <p>○地元水産物の販売促進及びPR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部は県漁連や学校給食センターと連携し、胸上海苔を使った花寿司の料理教室や親子料理教室で魚のさばき方を指導するなど、水産物の利用促進に努める。</li> <li>・漁協は胸上海苔を市内小中学校の給食に提供するとともに、胸上地区がノリの一大産地であることを紹介することで、胸上海苔の認知度向上を図る。</li> <li>・漁協は道の駅みやま公園や地元飲食店と連携し、共同開発した地元水産物を使ったメニューを試験販売する。また、急速冷凍設備で試作した地元水産物の加工品の活用を検討する。</li> <li>・漁業者は漁協や市と連携し、SNSを活用してノリや鮮魚のPR、漁の様子等を随時発信する。また、胸上海苔がパワーの源である地元商工会の人気キャラクター「東兎ライダー8」を活用した地元水産物のPRに努める。</li> <li>・女性部は道の駅みやま公園と連携し、地元水産物の販売イベントを開催する。</li> </ul> <p>○美しく豊かな海づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は県、市と連携し種苗放流を行う。また、岡山県資源管理指針に基づき資源管理に取り組み、水産資源の維持・増加に努める。</li> </ul>
---------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は県、市と連携し海底ゴミの回収促進及び海底耕運を実施し、海底の浄化に取り組む。</li> <li>・漁業者は、藻場の再生・造成のため、アマモの種採取及び播種に取り組む。</li> <li>・漁協は県、市と連携しガラモ場の再生・造成に向け、小型貝殻ブロックを地先海域に増設する。また、ガラモが定着したブロックの藻場再生・造成により適した海域への移設を検討する。</li> </ul> <p>○賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部は地元開催のイベントに参加する。また、道の駅みやま公園と連携し、地元水産物の販売イベントを開催する。</li> <li>・漁協は地元小学校の児童を対象にノリススキ体験を実施する。</li> <li>・漁協は市と連携し、メバルの種苗放流を市内小学生の環境学習の場として提供する。また、市内小中学生の参加を呼びかけ、アマモ場の再生・造成活動を実施する。</li> <li>・本委員会が参画する地域協議会（たまの農山漁村魅力向上推進協議会）において、漁業体験プログラムの開発や地元水産物を使用した新メニュー、特産品開発など、漁業収入向上の取組の一層の充実と具現化を加速させるため、農泊推進事業に取り組む。</li> </ul> <p>○意欲のある漁業者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は先進地視察に漁業者を参加させるなど、計画的な漁業経営を行う人材の育成に努める。</li> <li>・漁協は、県、市と連携して漁業就業相談の場を設けるなど、新規漁業就業者、漁業後継者に対する受入体制の整備を検討する。</li> <li>・漁協はノリ加工場の集約化や漁港施設の合理化を進め、作業負担軽減を図る等、新規漁業就業者、漁業後継者が就業しやすい環境づくりに努める。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により燃料費について、基準年比 1.1%の削減を目指す。</p> <p>○漁業経営の基盤強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ養殖漁業者は、省エネ型乾燥機への更新、多管式排気管の導入、加工場の集約化等に取り組み、燃油 1000当たりのノリ出荷枚数の基準年比 2.0%増加を目指す。</li> <li>・漁業者は、漁船機関の省エネ化や船底清掃、減速航行等による低コスト操業に取り組む。</li> <li>・漁協は県、市と連携し、石島のノリ養殖漁業者の約半数を対象に、ノリ加工場を集約及び協業化し、乾ノリの品質を統一する。また、他の石島のノリ養殖漁業者についても集約化を検討する（再掲）。</li> <li>・漁港施設を再整備し、施設の合理化及び作業性向上を図る。</li> </ul>

活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国）、新規漁業就業者総合支援事業（国）、漁業振興特別対策事業（県）、水産資源回復推進事業（市）、水産基盤整備事業（国）、農山漁村地域整備交付金（国）、港整備交付金（国）
-----------	---

#### 4年目（平成34年度）

以下の取組により漁業所得について、基準年比8.0%の向上を目指す。

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入について、基準年比1.3%の向上を目指す。</p> <p>○安心・安全で高品質な水産物の供給</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁船漁業者は岡山県漁業士会主催の「魚の神経締め講習会」等に参加し、技術の習得に努める。</li> <li>・漁協は神経締めを継続して実践する漁船漁業者を選定し、神経締めを施した水産物の差別化を検討する。</li> <li>・漁協は新たな鮮度保持技術の情報収集に努める。</li> <li>・漁協は小型急速冷凍設備をリース方式により導入する。</li> <li>・女性部は設備を活用して水産物を冷凍保存し、イベントで提供する料理の材料として利用する。また、品質低下しやすい小型エビ類やイカ類、近年水揚げが増加し価格が下落したマダイやチヌの加工品を製造し、イベントや道の駅みやま公園で試験販売する。</li> <li>・女性部は単価の安い魚介類や未利用魚の利用方法を検討する。</li> <li>・ノリ養殖漁業者は高感度な異物検出機及び選別機の導入を推進する。</li> <li>・漁協はノリを取り扱う商社を直接訪問し、ニーズを聴取する。</li> <li>・漁協は県、市と連携し、石島のノリ養殖漁業者全員を対象に、ノリ加工場を集約及び協業化し、乾ノリの品質を統一する。</li> </ul> <p>○地元水産物の販売促進及びPR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部は県漁連や学校給食センターと連携し、胸上海苔を使った花寿司の料理教室や親子料理教室で魚のさばき方を指導するなど、水産物の利用促進に努める。</li> <li>・漁協は胸上海苔を市内小中学校の給食に提供するとともに、胸上地区がノリの一大産地であることを紹介することで、胸上海苔の認知度向上を図る。</li> <li>・漁協は道の駅みやま公園や地元飲食店と連携し、共同開発した地元水産物を使ったメニューを販売する。</li> <li>・漁業者は漁協や市と連携し、SNSを活用してノリや鮮魚のPR、漁の様子等を随時発信する。また、胸上海苔がパワーの源である地元商工会の人気キャラクター「東児ライダー8」を活用した地元水産物のPRに努める。</li> </ul>
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部は道の駅みやま公園と連携し、地元水産物の販売イベントを開催する。また、漁協での直売を検討する。</li> </ul> <p>○美しく豊かな海づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は県、市と連携し種苗放流を行う。また、岡山県資源管理指針に基づき資源管理に取り組み、水産資源の維持・増加に努める。</li> <li>・漁協は県、市と連携し海底ゴミの回収促進及び海底耕運を実施し、海底の浄化に取り組む。</li> <li>・漁業者は、藻場の再生・造成のため、アマモの種採取及び播種に取り組む。</li> <li>・漁協は県、市と連携しガラモ場の再生・造成に向け、小型貝殻ブロックを地先海域に増設する。また、ガラモが定着した小型貝殻ブロックの一部を藻場再生・造成により適した海域へ移設する。</li> </ul> <p>○賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部は地元開催のイベントに参加する。また、道の駅みやま公園と連携し、地元水産物の販売イベントを開催する。</li> <li>・漁協は地元小学校の児童を対象にノリすき体験を実施する。</li> <li>・漁協は市と連携し、メバルの種苗放流を市内小学生の環境学習の場として提供する。また、市内小中学生の参加を呼びかけ、アマモ場の再生・造成活動を実施する。</li> <li>・本委員会が参画する地域協議会（たまの農山漁村魅力向上推進協議会）において、漁業体験プログラムの開発や地元水産物を使用した新メニュー、特産品開発など、漁業収入向上の取組の一層の充実と具現化を加速させるため、農泊推進事業に取り組む。</li> </ul> <p>○意欲のある漁業者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は先進地視察に漁業者を参加させるなど、計画的な漁業経営を行う人材の育成に努める。</li> <li>・漁協は、県、市と連携して漁業就業相談の場を設けるなど、新規漁業就業者、漁業後継者に対する受入体制の整備を検討する。</li> <li>・漁協はノリ加工場の集約化や漁港施設の合理化を進め、作業負担軽減を図る等、新規漁業就業者、漁業後継者が就業しやすい環境づくりに努める。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により燃料費について、基準年比 1.8%の削減を目指す。</p> <p>○漁業経営の基盤強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ養殖漁業者は、省エネ型乾燥機への更新、多管式排気管の導入、加工場の集約化等に取り組み、燃油 1000当たりのノリ出荷枚数の基準年比</li> </ul>

	<p>2.5%増加を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁船機関の省エネ化や船底清掃、減速航行等による低コスト操業に取り組む。</li> <li>・漁協は県、市と連携し、石島のノリ養殖漁業者全員を対象に、ノリ加工場を集約及び協業化し、乾ノリの品質を統一する。(再掲)</li> <li>・漁港施設を再整備し、施設の合理化及び作業性向上を図る。</li> </ul>
活用する支援措置等	水産業強化支援事業(国)、漁業経営セーフティネット構築事業(国)、新規漁業就業者総合支援事業(国)、漁業振興特別対策事業(県)、水産資源回復推進事業(市)、水産基盤整備事業(国)、農山漁村地域整備交付金(国)、港整備交付金(国)

#### 5年目(平成35年度)

以下の取組により漁業所得について、基準年比10%以上の向上を目指す。

取組の最終年度であり、前年度に引き続き行うが、目標達成が確実なものとなるよう、プランの取組状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組により漁業収入について、基準年比1.7%の向上を目指す。</p> <p>○安心・安全で高品質な水産物の供給</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は神経締めを継続して実践する漁船漁業者について、神経締めを施した水産物を差別化し、付加価値向上に取り組む。</li> <li>・漁協は新たな鮮度保持技術の情報収集に努める。</li> <li>・漁協は小型急速冷凍設備をリース方式により導入する。</li> <li>・女性部は設備を活用して水産物を冷凍保存し、イベントで提供する料理の材料として利用する。また、品質低下しやすい小型エビ類やイカ類、近年水揚げが増加し価格が下落したマダイやチヌの加工品を製造し、イベントや道の駅みやま公園で試験販売する。</li> <li>・女性部は単価の安い魚介類や未利用魚の利用方法を検討する。</li> <li>・ノリ養殖漁業者は高感度な異物検出機及び選別機の導入を推進する。</li> <li>・漁協はノリを取り扱う商社を直接訪問し、ニーズを聴取する。</li> <li>・漁協は県、市と連携し、石島のノリ養殖漁業者全員を対象に、ノリ加工場を集約及び協業化し、乾ノリの品質を統一する。また、石島以外のノリ養殖漁業者についてもノリ加工場の集約化を検討する。</li> </ul> <p>○地元水産物の販売促進及びPR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部は県漁連や学校給食センターと連携し、胸上海苔を使った花寿司の料理教室や親子料理教室で魚のさばき方を指導するなど、水産物の利用促進に努める。</li> </ul>
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は胸上海苔を市内小中学校の給食に提供するとともに、胸上地区がノリの一大産地であることを紹介することで、胸上海苔の認知度向上を図る。</li> <li>・漁協は道の駅みやま公園や地元飲食店と連携し、共同開発した地元水産物を使ったメニューを販売する。</li> <li>・漁業者は漁協や市と連携し、SNSを活用してノリや鮮魚のPR、漁の様子等を随時発信する。また、胸上海苔がパワーの源である地元商工会の人気キャラクター「東児ライダー8」を活用した地元水産物のPRに努める。</li> <li>・女性部は道の駅みやま公園と連携し、地元水産物の販売イベントを開催する。また、漁協での直売を試験的に実施する。</li> </ul> <p>○美しく豊かな海づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は県、市と連携し種苗放流を行う。また、岡山県資源管理指針に基づき資源管理に取り組み、水産資源の維持・増加に努める。</li> <li>・漁協は県、市と連携し海底ゴミの回収促進及び海底耕運を実施し、海底の浄化に取り組む。</li> <li>・漁業者は、藻場の再生・造成のため、アマモの種採取及び播種に取り組む。</li> <li>・漁協は県、市と連携しガラモ場の再生・造成に向け、小型貝殻ブロックを地先海域に増設する。また、ガラモが定着した小型貝殻ブロックの一部を藻場再生・造成により適した海域へ移設する。</li> </ul> <p>○賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部は地元開催のイベントに参加する。また、道の駅みやま公園と連携し、地元水産物の販売イベントを定期的に開催する。</li> <li>・漁協は地元小学校の児童を対象にノリすき体験を実施する。</li> <li>・漁協は市と連携し、メバルの種苗放流を市内小学生の環境学習の場として提供する。また、市内小中学生の参加を呼びかけ、アマモ場の再生・造成活動を実施する。</li> <li>・本委員会が参画する地域協議会（たまの農山漁村魅力向上推進協議会）において、漁業体験プログラムの開発や地元水産物を使用した新メニュー、特産品開発など、漁業収入向上の取組の一層の充実と具現化を加速させるため、農泊推進事業に取り組む。</li> </ul> <p>○意欲のある漁業者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は先進地視察に漁業者を参加させるなど、計画的な漁業経営を行う人材の育成に努める。</li> <li>・漁協は、県、市と連携して漁業就業相談の場を設けるなど、新規漁業就業</li> </ul>
--	---

	<p>者、漁業後継者に対する受入体制の整備を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協はノリ加工場の集約化や漁港施設の合理化を進め、作業負担軽減を図る等、新規漁業就業者、漁業後継者が就業しやすい環境づくりに努める。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により燃料費について、基準年比 2.0%の削減を目指す。</p> <p>○漁業経営の基盤強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ養殖漁業者は、省エネ型乾燥機への更新、多管式排気管の導入、加工場の集約化等に取り組み、燃油 1000当たりのノリ出荷枚数の基準年比 2.5%増加を目指す。</li> <li>・漁業者は、漁船機関の省エネ化や船底清掃、減速航行等による低コスト操業に取り組む。</li> <li>・漁協は県、市と連携し、石島のノリ養殖漁業者全員を対象に、ノリ加工場を集約及び協業化し、乾ノリの品質を統一する。また、石島以外のノリ養殖漁業者についてもノリ加工場の集約化を検討する。(再掲)</li> <li>・漁港施設を再整備し、施設の合理化及び作業性向上を図る。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティネット構築事業(国)、新規漁業就業者総合支援事業(国)、漁業振興特別対策事業(県)、水産資源回復推進事業(市)、水産基盤整備事業(国)、農山漁村地域整備交付金(国)、港整備交付金(国)</p>

(5) 関係機関との連携

漁業収入向上や漁業コスト削減のための取組の効果が十分発揮されるよう、岡山県、玉野市、岡山県漁業協同組合連合会と連携を深めるとともに、県内外の流通・販売業者、飲食店等についても新たな連携を図る。

4 目標

(1) 所得目標

基準年比 10%以上向上 (1人当たり)	基準年	平成 25～平成 29 年の 5 中 3 平均 :
	目標年	平成 35 年 :

(2) 上記の算出方法及びその妥当性



1 一人当たりの基準年所得額

部会の対象となる漁業者をノリ養殖漁業グループと漁船漁業グループの2つに分類し、各グループから数名を標本抽出した。平成25年から平成29年の5年間における標本漁業者の所得のうち、最大値と最小値を除く3年の平均で各グループの基準年所得を算出しグループごとの人数で調整して1人当たりの基準年所得額を算定した。

2 目標年の漁業所得

基準年に対して収入を1.7%向上、経費（燃油代）を2.0%削減させて算出した。

(3) 所得目標以外の成果目標

・乾ノリ製造における省エネ型乾燥機への更新、多管式排気管の導入、加工場の集約化等の推進 →燃油 1000当たりのノリ出荷枚数の増加（基準年比 2.5%以上向上）	基準年	平成25～平成29年度の5中3平均： 10,859枚
	目標年	平成35年度： 11,131枚

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

1 基準年の燃油1000当たりのノリ出荷枚数

ノリ養殖漁業グループから数名を標本抽出し、平成25年から平成29年の5年間における標本漁業者の1000当たりのノリ出荷枚数のうち、最大値と最小値を除く3年の平均値を算出し、グループの人数で調整して基準年の燃油1000当たりのノリ出荷枚数を算定した。

2 目標年の燃油1000当たりのノリ出荷枚数

基準年に対して燃油1000当たりのノリ出荷枚数を2.5%向上させて算出した。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティーネット構築事業	漁業者と国が1対1の負担割合で資金を積み立て、原油価格が一定の基準を超えて上昇した場合に、積立金から補てん金の交付を受けることにより、漁業コスト削減につなげる。
新規漁業就業者総合支援事業	意欲ある若者が漁業に新規参入し、継続して漁業に携わるための環境を整えるとともに、漁業の付加価値化を担う人材を確保、育成する。
漁業振興特別対策事業	藻場の再生・造成に取り組むことにより漁場を造成し、水産資源の維持・増加を図る。

水産資源回復推進事業	種苗放流による水産資源の維持・増加を図る。
水産基盤整備事業、農山漁村地域整備交付金、港整備交付金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業活動の一層の活性化、漁業就労環境の改善及び生活環境の改善を図るために漁港整備を行う。</li> <li>・漁港施設の機能保全を行うために必要な機能保全計画の策定及び保全工事を行う。</li> <li>・民生の安定上、重要な地域を高潮等による被害から守るために海岸保全施設整備を行う。</li> </ul>
水産業強化支援事業	ノリ加工共同利用施設を整備・運営し、石島のノリ養殖漁業者の約半数の加工作業を協業化し、乾ノリの品質を統一する。また、労働時間の削減及び海上作業時間の増加により、生産量の増加、生産コスト削減等を図る。